

2024年3月11日

## 第2回ちちぶ地域デザインセミナー

# 「交流なくして活力なし」

インドネシアとのグローバル交流と「ちちぶ伝習館」構想

西武文理大学サービス経営学部

教授 岩瀬忠篤

# 秩父地域の「地域デザイン」を考える(1)

(秩父というところ)

「そしてこの秩父山地は、荒川、利根川、富士川、多摩川、信濃川という五大河川の水源地であり、つまりは五つの水系の文化の出会う場所、文化の集散地であった」

「・・・ともかくも秩父というところは、個性的である」

(出典) 富山和子『日本の米』中央公論新社

## 秩父地域の「地域デザイン」を考える(2)

「第五章自然の中で育つ、自然と共鳴する」

(都市以外の場所で一定期間過ごす)

「私はさまざまな本で「現代の参勤交代」を提唱してきました。都会の人が、たとえば一年に一カ月でもいいから、田舎の過疎地に滞在し、身体を使って働いたり、のんびりしたりできるようにするのです」

(出典) 養老孟司『ものがわかるということ』祥伝社

## 秩父地域の「地域デザイン」を考える(3)

「都市についての考え方が変わってくるかもしれませんが、過疎になった地域も生き返る。それこそ、日本全体の国土の再生になります」

「他にも重要な効用があります。日本は災害列島ですから、……だから、参勤交代しながら、自分の田舎をつくっておくのです」

(出典) 養老孟司『ものがわかるということ』祥伝社

# 秩父地域の「地域デザイン」を考える(4)

(国土交通省国土計画局計画官として提言)

- ・都市と農山漁村の「二地域居住」への提言ー多様なライフスタイルを求めてー(平成17年(2005年)7月)
- ・異質文化交流による地域活性化を目指して～交流なくして活力なし～(平成18年(2006年)2月)

(参考)

シンガポール東南アジア研究所(ISEAS)客員研究員  
(日本政府(経済企画庁)より派遣)(1992年～94年の  
2年間シンガポール駐在。東南アジア研究等を実施)

# 秩父地域の「地域デザイン」を考える(5)

## ・埼玉県の人口動態

(2022年1月1日時点の総務省人口動態調査)

①埼玉県の人口は前年比0.11%減の738万5848人と初めて人口減少に転じた

(2023年10月1日時点733万1296人前年比0.08%減)

②さいたま市の人口増加数は前年比7637人と埼玉県内に加え全国でもトップクラス

# 秩父地域の「地域デザイン」を考える(6)

## ・埼玉県の人口動態

(2022年1月1日時点の総務省人口動態調査)

① これまで人口増加傾向にあった県西部の川越市、所沢市でも人口減少に転じている(県南部の川口市、東部の越谷市などでも)

② こうした中で、これまでも大きな人口減少を続けている「秩父地域」を中心とする埼玉県西部周辺地域は大変困難な状況に直面している

# 秩父地域の「地域デザイン」を考える(7)

・令和2年(2020年)国勢調査

## ① 人口減少率が高い市町村

1小鹿野町(10.1%)、2小川町(8.5)、3皆野町(8.2)、3ときがわ町(8.2)、5吉見町(7.3)、6東秩父村(7.0)、6長瀬町(7.0)、8川島町(6.7)、9横瀬町(6.3)、10秩父市(6.1)

## ② 人口減少数の多い市町村

1熊谷市(4303人)、2秩父市(3849)、3狭山市(3693)、・・6入間市(2667)



# 秩父地域の「地域デザイン」を考える(8)

## ・埼玉県の人口動態

① 埼玉県の人口動態は、日本全体の人口動態と酷似(東京(東京圏)一極集中、さいたま市一極集中)

② ただし、埼玉県は「東京圏」のメンバー(他は東京都、神奈川県、千葉県)であり、日本全体から見ると、人口の分散も期待されているという特殊要因がある

# 秩父地域の「地域デザイン」を考える(9)

- ①埼玉県は独自の人口ビジョンを含む「地域デザイン」が求められている(埼玉県の出番、力量が試される)
- ②イメージとしては、「さいたま市」は県都としてグローバル面を一層強化することが必要。一方、いわゆる市場メカニズムに対抗して、西部地域に「人口・経済」の資源を意図的に分散させる政策対応が必要

# 秩父地域の「地域デザイン」を考える(10)

## 「地域デザイン」の構想

- ①「地域デザイン」は本学の基本理念である「ホスピタリティ」と「デジタル」が起点となると考えている（現代の「論語」と「そろばん」）
- ②新しい知見である「フューチャー・デザイン」、「空間経済学」、「産業立地・企業立地の理論」の活用が必要（「地域デザイン論」）

# 秩父地域の「地域デザイン」を考える(11)

「ちちぶ地域デザイン構想」(交流なくして  
活力なし)

①「秩父地域」等の地域に、インバウンドを含む  
観光等の「交流人口」に加え、「二地域居住人  
口」を活用していくことができないか

②新交流拠点としての西武文理大学「ちちぶ伝  
習館」を創設ができないか

# 秩父地域の「地域デザイン」を考える(11)

(提言)

・インドネシアを含むグローバルな交流をさらに展開していくことが必要

・「交流人口」、「二地域居住人口」(関係人口)を意図的に増加させる仕組みが必要

# 秩父地域の「地域デザイン」を考える(12)

(秩父地域で西武文理大学が貢献できること)

- ・グローバルな交流をさらに展開していくため、本学の留学生による秩父地域での活動等を支援。また、インドネシアの大学との連携を検討
- ・新交流拠点として「ちちぶ伝習館」を創設し、本学の学生等による「ちちぶアクティブラーニング」を展開

(注)留学生数117名(中国60名、ベトナム49名、ネパール4名、台湾2名、マレーシア1名、バングラデシュ1名)(2023年度)

# 秩父地域の「地域デザイン」を考える(13)

## 「ちちぶアクティブラーニング」イメージ

- ・留学生を中心としたインバウンド客、外国人労働者等への対応に関する調査と提言・実行
- ・「ちちぶアンバサダー」の取組みへの協力
- ・「Mahora稲穂山」の多様な活動との協働実施
- ・「ポテくまくん」等の秩父地域の自治体による「ゆるキャラ」の活動支援
- ・「ボランティアツーリズム」や「TENJIKU秩父」での地域課題解決のための共同作業の実施

# 秩父地域の「地域デザイン」を考える(14)

(提言とお願い)

- ・インドネシアの大学との連携等については、本  
日ご参加のインドネシア・ダルマプルサダ大学  
及び二ノ宮製作所の関係者の皆様のご支援を  
お願いしたい
- ・「ちちぶ伝習館」については、本日ご参加の「  
Mahora稲穂山」の関係者の皆様のご支援をお  
願いしたい



# インドネシアの基礎統計(2022年)

## ・名目GDP

インドネシア(1.3兆ドル)、日本(4.3兆ドル)

## ・1人当たり名目GDP

インドネシア(4800ドル)、日本(34000ドル)

## ・人口(2023年央)(国連推計(2023年4月))

インドネシア(2.8億人)、日本(1.2億人)

## ・実質GDP成長率

インドネシア(5.3%)、日本(1.0%)

# 開学25周年記念特別事業 「ちちぶ伝習館」開設(案)

埼玉県秩父地域振興センターとの協力・連携に関する協定に基づき、西武文理大学の「新交流拠点」として整備

①留学生を中心とした「ちちぶ地域デザイン構想」実現のための実態調査費用(25万円:調査費(交通費・宿泊費、1万円)×20人分等)

②二地域居住による「社会システム産業」(ホスピタリティ産業)推進のためのモデルケース検討費用(50万円:10万円の実施補助×5件分(秩父地域の1市4町))

③「ちちぶ伝習館」の内装改修費用等(100万円)

クラウドファンディングにより部分的に資金調達を計画中(大学創立記念日の6月24日にクラウドファンディングを開始予定)